

LIBERAL&DEMOCRATIC

自由民主

発行所
自由民主党本部
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町 1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
＜毎週火曜日発行＞



自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.jp/>

「ミスター防災」早坂よしひろさんは、東京の「いのち」を守る活動に全力投球しています。

東京都議会議員

早坂よしひろさん



「ミスター防災」として
活躍中の早坂よしひろさん。
本日はその活動を紹介いたします。

昨今の防災に関する動きについて教えてください

はい、わが杉並区の防災に大きな関係のある、ふたつの大火災についてお話しします。
ひとつ目は、昨年12月の新潟県糸魚川市での大火災です。出火から30時間にわたって、4万平方メートルが焼けました。これは杉並区桃井の原っぱ公園と同じ広さです。私が現地に調査に入った、出火から23時間後の状況でも、まだ消防団が放水しています。
ふたつ目は、今年2月の埼玉県



平成28年12月 新潟県糸魚川大火災

他県での大火災が、杉並区の防災とどんな関係があるのですか

三芳町・アスクル物流センターでの火災です。焼損面積は4万5000平方メートルでしたから、杉並区浜田山の柏の宮公園と同じ面積です。消防隊の努力にも関わらず、鎮火まで実に13日間を要する、想像を超えた大火災となりました。



平成28年2月 埼玉県アスクル物流センター火災

わが東京都が発表した「首都直下地震の被害想定」によると、最悪の場合、杉並区内で発生する総死者(560人)の75パーセントが焼死であり、また区内すべての建物(12万3000棟)の20パーセントが全焼するとされています。
つまり杉並区の地震被害は、火災に起因するものなのです。その観点からすれば、ふたつの大火災に学ぶことは極めて多いです。一方で、先の阪神淡路大震災での死者の75パーセントは、建物倒壊による圧死窒息死でした。

首都直下は焼死、阪神淡路は圧死・窒息死。このふたつの一番の違いは、死に至るまでの時間の違いです。すなわち焼死は地震発生後、数十分から数時間後のものであるのに対し、圧死・窒息死は地震発生直後に家屋が倒壊することによるもので、ほぼ即死です。
従って、その数十分から数時間の猶予を活かすことができれば、首都直下地震での死者は激減させることができる、というのが私の考えです。

首都直下地震からいのちを守るためにはどうしたらいいですか

火災を大きくしないためには、まず防災まちづくりが必要で、すなわち、個々の建物の不燃化・耐震化と延焼遮断帯となる道路拡張です。

次に初期消火です。首都直下地震では、杉並区においては地震直後37件の火災が発生し、これが最終的には2万3000件を超す延焼火災となるとされています。従って火の勢いが弱い間に、いかに初期消火に努め延焼を防ぐかが、死活的に重要です。

しかしそれでも火が迫ってきたら、最後に避難という段階になります。大正12年の関東大震災では、6万7000平方メートルの広大な空き地(本所被服廠跡)で、ここに避難してきた3万8000人が焼死しました。なぜ東京ドームと同じ広さの、安全であるはずの空き地で焼死したか、という謎について、私は平成24年の都議会本会



経済再生大臣
石原のしげるさん

頑張れ!
ミスター防災!!

議で取り上げました。本所被服廠跡の惨事は、関東大震災発生から4時間後です。従って私は、この4時間を適切な避難行動に活かしていれば、当時の状況下であっても犠牲者は減らせたはずと考えます。

首都直下地震の杉並区の被害は、火災によるものです。防災対策といった場合に私たちの脳裏に真っ先に浮かぶ「備蓄食料の充実」は、実はいのちを守ることにはつながりません。食料が必要になるのは、いのちが守られた後です。

私は、首都直下地震の火災対策に重点を置いて、東京の「いのち」を守ります。

100円募金のお願い

政治献金

1口100円より

三菱東京UFJ銀行 荻窪駅前支店

普通 4585617

自民党杉並22支部 支部長 早坂義弘 宛

●お振込頂く際には、お名前ご住所お電話番号を、事務所にメールやFAXなどでお知らせください。
※外国籍の方からの献金は禁じられています。

早坂よしひろ 事務所

早坂よしひろ

検索

hello@tokyo-hayasaka.com



〒167-0043 杉並区上荻1-11-5-505 TEL 03-3220-0411 / FAX 03-3220-0433

2020 TOKYO パラリンピックを成功させよう!

東京都議会議員

早坂

ミスター防災 よしひろさん



プロフィール

- 1968.11.27 荻窪の東京衛生病院生まれ (さる年・射手座・AB型) 48才
- 西田幼・西田小・松溪中卒業、大検合格
- 立教大学法学部卒業 (北岡伸一教授=元国連大使に師事)
- 働きながら明治大学公共政策大学院修了 (青山俊教授=元東京副知事に師事)
- 防災情報機構NPO法人事務局次長として全国で防災講演
- 自民党都議候補者全国一般公募第1号
- 東京都議会議員(現在3期目)
- 都議会予算特別委員長など歴任
- 明治大学客員研究員
- 日本AED財団常務理事
- 日本防災士会常任理事
- 河北総合病院地域医療支援協議会委員
- 日本体育協会評議員
- 東京都綱引連盟会長

<災害調査>
中国四川大地震・米国ハリケーンカトリーナなど国内外多数。東日本大震災では発災当日に被災地入りし支援活動。

東京の「いのち」を守る。



平成27年5月 杉並区水防訓練



平成26年7月 善福寺川台風被害調査



日本AED財団として丸川オリパラ大臣にレクチャー



平成28年6月 荻窪消防団総法大会で挨拶



平成28年3月 防災士10万人達成記念大会



平成29年1月 東京消防出初式で先頭を行進



平成26年3月 大島台風被害調査(東京都大島町)



平成27年1月 杉並消防団始式で区長表彰



平成29年1月 荻窪消防団始式



平成28年11月 杉並区総合防災訓練にて



平成27年1月 東京消防出初式



平成28年5月 熊本地震調査(熊本県益城町)



平成27年2月 鬼怒川水害調査(茨城県常総市)